

センサー

1989年 1月号 第20号

東京温度検出端工業会 会報

会員の皆様へ

会長 二宮三郎

年頭の御挨拶を申し上げます。

天皇崩御の報道がこの挨拶原稿に手をつけたときにありました。会員の諸氏を代表して、心から哀悼の意を表します。30余年前天皇御一行と共に地方の植樹祭行事に参加しまして言葉を交わしたことがあり天皇誕生日にも宮中に父母の代理として招かれたので特に印象が深く残っています。振り返れば天皇にも我々にも、激動の昭和は終わりました。

新しい年号、平成、と改まり、会員の皆様益々壮健で活躍されることを願っています。昨年は昇り竜の年と言われて活発に物も動き一般に景気もよかったように伝えられますが、我が業界では利益なき繁栄と言う年でした。今年も円高基調は続き景気も順調に推移すると思いますので新しい年と共に発展を期待しています。蛇の年には過去を振り返ると良い面と悪い面とがはっきりしています。我々の警戒をしなければならぬ点は、昭和に入り六回の蛇年をみると竜年にはいずれも景気がよろしいが蛇の年に入ると後半から景気は下向きになっている。こうした繰り返しの前例が今年はないように、年号も新しくなったことですから願ってやみません。

我が業界としても国際化と言う避けて通れない時代が来ていますので今年はそうした方面にも視点を向けた活動を開始しなくてはなりません。国内では新しい税制への対応、値上げに対して公正委員会との問題など当面業界として手数の掛かる仕事が控えています。こうした事情から皆さんと共に慶賀と言うことを申し上げることの出来ない年の始めです。一方政治の中心永田町を見れば経済大国、政治の三等国と諸外国から言われているような状態が繰り返えされて国税の無駄使いと時間の浪費に明け暮れている。芝居に例えるならば、永田町の根廻座の座長を始め黒色、灰色の大根役者の演ずる政怪劇、リクルート疑惑の場と言う国民を馬鹿にした劇を、セリフは秘書だ、妻だ、家族だ知らなかった。法的には問題ないの繰り返して猿芝居を半年続けて年は暮れ、座主はそのまま役者を入れ替えてリクルート劇は幕を降ろさずに新年に持ち越

して、座主は二度とはしません。政治倫理を政党法を今年こそはと頭を下げての口上挨拶をしていますが、これは毎度の事で永田町の議会座には一般の常識は通用しない。道義もない国民の代表としての教養もない役者があまりにも多すぎる。芸としては嘘をつくこと、人を食うこと、金づくりだけ、大根役者が金集めに狂い、本来の使命を少しも果たしていない。こんな大根役者を選んだ国民も大きく反省しなくてはならない。疑惑と言う足を引きづりながら蛇年日本は金余りの中で投資ブーム、に狂った蛇が踊り廻る。東南アジアからは小さな蛇が不法上陸して稼ぎ廻る。アメリカの方からは保護主義を強め、自由化の圧力と威嚇をするガラガラ蛇が頭を挙げて待っている。欧州ではe cのブロック化と言う錦蛇がとぐろを巻いている。北方ソビエトの白熊は兵力削減を叫びながら我が国の北方領土を指さして、盛んに笑顔を振り撒いているが心の許せない熊です。それでは人間の住まう環境はと見れば北欧の諸国では黒い雨と汚染に対して本格的に政治課題として米、英を巻き込み取り組みはじめた。砂漠の地では宗教や人種差別の争い、イスラエルとアラブのコブラとマムシの果てしない対立は時折毒をはいて殺しあっている。そして世界を見渡すと、いつ、どこで何が起こるか分からない状況にある。日本で動き廻っている蛇は飽食で毒気も出さずに今の所日夜、スネークダンスにうつつを抜かしていますが、いつまで続くことでしょうか。日本の議会はアメリカの倍という議員がいて、国民の要望する緊急事項は取り上げず、税制議会と言うのに七ヶ月にも及ぶ中で、税に関しては72時間、国民の知りたい事、疑問点には何一つ答えず野党との裏取引とリクルート疑惑での審議拒否、政府側も言いわけに終始して、強行採決で終わってしまった。国民の政治不信もその極に達しました。もっと我々産業界を見習ってほしい。まず国民の負担を軽くする為に行政改革を率先して議会から実施、その為には衆議院議員を現在の半数にすること。参議院は現在のような衆議院のコピーならば不要、廃止すべきです。二院制度の意味がないから、立法府の議員は国民の意を受けて、制度を正したり、時代に即応して、立法や法の改正や修正を速やかに実施して、国民の付託に答える義務と責任があるのに、その議員が法を悪用したり、労せずして利権で金儲けに狂奔しているなどは国を滅ぼす元になる。これでは政府に対するチェック機能は果たせない、その能力もない。だから縦型と縄張り争いや補助金の無駄や二重も正せず、合理的で能動的な小さな政府にはいつまで待ってもならない。議会と議員が官僚まかせ、官僚頼みだから、こんな議会も議員も政府も許せない段階に来ている。金の掛からない選挙制度の改革の方が竹下総理の故郷創生論の実行より先ではないのか、自らの不利な事には手を付けない、改めないで、我々としては我慢の限界であるから業界の皆さんを代表して、苦言を呈すると共に政府と議会に対して要望を申しあげて新しい年、平成、の出發の挨拶と致します。

1989年 平成元年1月8日

会社紹介

大手金属株式会社

資本金 100,000,000円

取締役社長 藤村 磯夫

当会担当 取締役営業部長 濱田 菊次郎

本社 〒101 東京都千代田区神田神保町2-1 (岩波神保町ビル)

TEL (03) 262-3476 FAX (03) 238-0698

細倉工場 〒989-54 宮城県栗原郡鶯沢町字南郷荒町48

TEL (0228) 55-3853 FAX (0228) 55-2850

同社は三菱金属グループの一員(株主は三菱金属㈱、大手興産㈱、三菱アルミニウム㈱の3社)として非鉄金属の再利用を主目的として昭和45年11月に設立されました。設立以来、アルミニウム、金、銀、銅、鉛及びその他のレアメタルの回収業務を主としてきましたが、今度、宮城県の細倉工場に補償導線の製造設備を導入し、補償導線の製造販売を開始されました。これを機会に当工業会への入会を希望されましたので理事会において討議のうえ入会を承認されたものであります。

(正式には4月1日付けとなります)

営業品目は

- ① 非鉄金属の製錬並びに加工。
- ② 金属回収を目的とする産業廃棄物の処理。
- ③ 前各号の製品、副製品及び原料の売買。
- ④ 金属・鉱物・排水・排煙等の分析業務。
- ⑤ 金属関係工場の調査、設計等のコンサルタント業務。

等となっております。上記細倉工場以外にも富士、小名浜、直島、各工場があります。また大宮には分析センターがあり、市中よりの依頼分析試験も引き受けていらっしゃるようですので利用させてもらえるのではないのでしょうか。

会の動き

- ◎昭和63年8月29日 業態調査アンケート集計報告
回答社数29社
- ◎ " 9月9日 通産省計量行政室関係団体概要報告書提出
- ◎ " 9月20日 会報「センサー」19号発行
- ◎ " 9月21日 工場見学会 見学先 資生堂大船工場 古河特殊金属工業(株) 古河電工(株)平塚事業所 鎌倉山そば処播亭にて昼食 参加22名
- ◎ " 10月7日 会員有志が横河電機(株) 小川実吉氏より JIS C1604、C1606の改正原案について説明聴取、資料受領、希望会員に配布
- ◎ " 10月11日 新しい会員名簿発行
- ◎ " 10月21日、22日 一泊見学会及懇親会 見学先 カシオ計算機(株)甲府事業所 (株)ワカツキ 県地場産業センター
懇親会 ホテルやまなみ宿泊 善光寺 ぶどう狩 武田神社 サントリー山梨ワイナリー 参加17名
- ◎ " 11月18日 第17回技術懇談会 都立工技センター第2会議室にて
参加14名
- ◎ " 11月30日 第19回懇親会ゴルフ会 武蔵カントリークラブ豊岡コースにて
参加8名

理 事 会

昭和63年7月21日定例

- ◎9月工場見学会 9月21日(木)資生堂大船工場と古河電工(株)平塚工場の見学を行う。
- ◎一泊見学会 10月21日(金)と22日(土) カシオ計算機(株)甲府事業所と(株)ワカツキを見学し石和温泉宿泊、翌日ぶどう狩、サントリーワイナリー等で計画をすすめる。

昭和63年10月7日定例

- ◎一泊見学会の詳細計画について。
- ◎11月～平成元年1月の行事予定について
- ◎新春懇親会の担当を林電工、西村工業とする。

昭和63年12月7日定例

- ◎新春懇親会を2月3日八芳園で行う
- ◎12月～平成元年5月の行事について
- ◎平成元年3月末をもって日本特殊陶業(株)退会
4月1日付で大手金属(株)の入会を承認

電気計測器生産実績(通商産業省機械統計月報による)

(%は金額の対前年同月(期)比)

品 目 名			63年9月			63年1月~9月	
			数量(台)	金額(百万円)	(%)	金額(百万円)	(%)
工業計器	プロセス用	発信器					
		温度計	21,497	477	113.8	4,125	115.4
		圧力計	5,850	784	91.4	6,677	99.1
		液位計	1,982	442	113.6	3,357	104.6
		流量計	11,705	2,558	116.1	18,602	118.9
		その他	10,642	1,266	149.1	8,369	130.1
		(小計)	5,527	117.1	41,130	115.5
	工業計器	※受信計					
		指示・記録計	19,975	1,982	85.2	18,043	111.7
		調節計	38,179	1,758	99.8	14,301	98.0
		補助機器	30,962	1,381	138.4	9,102	112.8
		(小計)	5,121	100.7	41,446	106.8
		操作器	5,331	1,011	138.1	7,107	121.3
		プロセス用分折計	1,491	716	119.9	4,533	114.1
	プロセス監視制御システム	6,502	10,312	101.8	66,791	120.7	
	その他の工業計器	6,501	154.4	50,699	120.8	
	計	28,738	114.1	211,703	116.6	

編集後記

何かとあわただしく新しい年が始まりました。国内外全般に好景気のようにですが会員皆様のところはいかがでしょうか。今年は4月から消費税が導入されること、また同じく測温抵抗体のJIS改定もあり様々な影響が出てくるように思います。工業会においても対応をせまられることとなりますが、客先へのサービス、説明を徹底し、会員間の連絡も密にして、我々が不利益をこうむることのないようにしたいものです。なお今回でこれまで毎回続けてまいりました会社紹介が終了します。原稿を書いていた担当の方、御苦勞様でした。次号からはまた新しい企画を始めたいと思います。何か良い企画がありましたら教えてください。

平成元年1月発行 No.20

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都品川区西五反田1-13-11 (西村ビル)

電話 494-0671